西暦 2021 年 6 月 27 日

研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題名：片側顔面痙攣における血管蛇行率の形態学的解析と
穿通枝分布の検討

本研究は藤田医科大学の医学研究倫理審査委員会で審査され、学長の許可を得て実施
しています。

1．研究の対象

2012 年 1 月 1 日から 2021 年 11 月 30 日までに藤田医科大学病院脳

神経外科を受診し、片側顔面痙攣で微小血管減圧術を受けた患者

2012 年 1 月 1 日から 2021 年 11 月 30 日までに

藤田医科大学病院脳神経外科・脳卒中科を受診し、脳動脈瘤クリ

ッピング術もしくはコイル塞栓術を受けた患者

2．研究目的・方法・研究期間

片側顔面痙攣は生命予後に直接関連しない機能的疾患であるが、日常生活や社会生活において障害となり、うつ症状を呈することも多い。内服やボツリヌス毒素の注射は対処療法でしかなく、効果も限定的であるため、根本的治療となるのは開頭手術である。手術を希望する患者さんには侵襲・リスクの高い治療を提供することになるため、手術の确实性を高める工夫はもちろん、痙攣の発生原因の解明が求められている。片側顔面痙攣の発生機序は多因子と考えられ、くも膜の肥厚や後頭蓋窩の容積、高血圧、血管の蛇行などが推定されているが、特に血管の蛇行に関しては、統計学的に証明されていない。自験例から、椎骨脳底動脈の蛇行が少ない症例群において、主幹動脈から発生する微細な動脈（穿通枝）の存在が多い傾向を認めたため、血管蛇行に注目して形態学的、統計学的にその蛇行率と穿通枝分布の関連について検証を行うこととする。科学的に血管蛇行率が多数の症例で発生に関与することを証明し、血管蛇行率の低い症例では穿通枝の分布がその原因となる可能性を検討する。期間 2012 年 1 月 1 日から 2021 年 11 月 30 日までに当院脳神経外科及び脳卒中科において、微小血管減圧術、脳動脈瘤クリッピング、脳動脈瘤コイル塞栓術の手術に際して撮影した血管造影の CT 画像、電子カルテより背景因子情報を抽出して解析を行う。穿通枝の分布に関しては、手術記録と手術時のビデオデータ、写真データより解析する。画像データはシ

ミュレーションソフトウェアの MATLAB を用いて動脈の蛇行率と穿通枝の分布を形態学的にピクセル解析する。数的データは単変量の二群間 Wilcoxon 検定や多変量の因子解析を主に用いる。

研究期間（倫理審査委員会承認日～2021年12月31日）

研究資金については、学内の研究費のみを使用しており、外部の資金や物的支援を受けないため、開示すべき利益相反はありません。

3．研究に用いる試料・情報の種類

血管造影の CT 画像、手術のビデオ、写真画像、手術記録、カルテ情報
年齢、背景因子（高血圧、脂質異常症、喫煙、糖尿病）等

4．外部への試料・情報の提供

なし

5．研究組織

本学の研究責任者：

藤田医科大学 医学部脳神経外科 講師 西山悠也

6．除外の申出・お問い合わせ先

試料・情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、お申し出により、研究の対象となる方その他に不利益が生じることはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者 藤田医科大学 医学部脳神経外科学 講師 西山悠也

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 - 9 8

電話 0 5 6 2 - 9 3 - 9 2 5 3

ファックス 0 5 6 2 - 9 3 - 3 1 1 8